

大学院入試に関する注意（重要）

1. 外国語試験における注意事項

外国語試験は英語のみで志願者全員必須とします。ただし，社会基盤工学専攻の前期課程について，TOEFL（Test of English as a Foreign Language）またはTOEIC（Test of English for International Communication）のスコアの提出により，筆記試験に代えることができます。詳細は社会基盤工学専攻の入学試験案内の博士課程（前期課程）に記されておりますが，希望者はその為の必要書類を別途準備する必要があります。

2. 筆記試験免除制度の採用

社会基盤工学専攻の前期課程については，特に学業の優秀なものに対して筆記試験免除選抜を実施いたします。詳細は前期課程の学生募集要項に記されておりますが，希望者はその為の必要書類を別途準備する必要があります。

大学院入試に関する注意（重要）

1. 外国語試験における注意事項

外国語試験は英語のみで志願者全員必須とします。ただし，社会基盤工学専攻の前期課程について，TOEFL（Test of English as a Foreign Language）または TOEIC（Test of English for International Communication）のスコアの提出により，筆記試験に代えることができます。TOEFL あるいは TOEIC スコアの換算を希望する者は，社会基盤工学専攻の入学試験案内の博士課程（前期課程）をよく読んで，必要書類を準備してください。

2. 筆記試験免除制度の採用

社会基盤工学専攻の前期課程については，特に学業の優秀なものに対して **筆記試験免除選抜を実施いたします**。希望者は前期課程の学生募集要項をよく読んで，必要書類を準備してください。

平成18（2006）年度
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻

博士課程（前期課程・後期課程）

入 学 試 験 案 内

この案内書は平成18（2006）年度名古屋大学大学院工学研究科博士課程（前期課程・後期課程）学生募集要項の説明を補い、社会基盤工学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。なお、本専攻は土木工学系に限らず、**社会基盤工学に興味を持つ工学部の他系学科、理学部、農学部、経済学部、文学部等の卒業生にも広く門戸を開いており、専門部門の試験においてそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。**詳しくは「3. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲 専門部門」の項を参照されたい。なお、不明な点は下記へ問い合わせさせていただきたい。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻事務室
(電話 052-789-3735)

◎博士課程(前期課程)

1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・願書受付期間 平成17年6月15日（水）～ 同年6月17日（金）
- ・入試期日及び科目

本専攻は筆記試験免除の制度があり、願書においてこれを希望した者は、次表の日程で審査が行われる。書類選考または面接試験において選抜から漏れた者は一般選抜試験（筆記試験）を受験することができる。なお、この制度での選抜は土木工学系出身者に限る。

<筆記試験免除者選抜>

月 日	時 間	事 柄	試 験 場
7月14日（木） 7月23日（土）	9:00～17:00	書類選考結果の本人宛発送 面接試験	工学部8号館会議室 (集合場所)
7月29日（金） 8月25日（木）		面接試験結果の本人宛発送 専攻教員全員による口頭試問 (一般選抜試験に同じ)	

筆記試験免除を希望していない者および、筆記試験免除者選抜において選考に漏れた者は次の日程での一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）を受験する。

<一般選抜試験>

月 日	時 間	科 目 名	試 験 場
8月23日（火）	10:00～12:00	1. 外国語(英語)	工学部7号館701講義室
	13:30～16:30	2. 基礎部門	
8月24日（水）	9:00～13:00	3. 専門部門	
8月25日（木）	筆記試験当日通知する。	4. 専攻教員全員による口頭試問	工学部9号館911講義室 (集合場所)

- ・合格発表日 平成17年9月15日（木）正午（筆記試験免除者も同時）

2. 筆記試験免除者選抜面接試験

本専攻では、学業成績の特に優秀な者に対して筆記試験免除者選抜を実施する。

筆記試験免除者選抜の希望者のうち、書類選考に合格した者は面接試験を受ける。この面接試験においては、その参考とする為の資料を、控え室にて作成させることがある。

3. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲

出題範囲については6ページの「名古屋大学大学院工学研究科（社会基盤工学専攻）平成18年度博士課程（前期課程）入学試験学力検查出題範囲」を参照のこと。

・外国語

英語のみ。志願者全員必須とする。ただし、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) またはTOEIC (Test of English for International Communication) スコアの提出により、筆記試験に代えることができる。これに関して、以下の方法で実施する。

- スコアシートの提出は任意とし、提出者には換算点を与える。
- スコアシート提出者は筆記試験（英語）を受験してもしなくてもよい。受験しない場合、筆記試験（英語）の時間に試験会場に来る必要はない。受験した場合、筆記試験とスコア換算点のいずれか高い方の得点を採用する。
- スコア換算を認めるのはTOEFL、TOEICのみとし、スコアの有効期限は問わない（何年前のスコアでも有効）。TOEFLについては、CBT (Computer-Based Test)、PBT (Paper-Based Test) のいずれについても受け付ける。団体特別受験制度（IP: Institutional Program）のスコアは受け付けない。

スコアシートは以下の点に注意し、提出する事。

- TOEFL/TOEICのスコアシート（TOEFLの“Examinee's Score Record”あるいはTOEICの“Official Score Certificate”〈公式認定証〉）の提出は、出願時に願書とともに行うこと。コピーの提出は認めない。
- 入試までの間に開催されるTOEFL/TOEICの試験は、その回数が限られている。これからTOEFL/TOEICを受験する者は試験開催日程に注意すること。
- TOEFL/TOEICに関する詳細は下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/>

TOEIC: <http://www.toeic.or.jp/toeic/index.html>

また、スコアの筆記試験への換算は以下の方法で行われる。

- TOEFL (PBT)からの換算は、600点以上を満点に相当する200点、400点以下を0点として、以下の式を用いる。
$$\text{TOEFL (PBT) スコア} - 400 = \text{換算点}$$
- TOEFL (CBT)からの換算は、TOEFL 公式HPに示されている換算表に基づいてTOEFL (PBT)に換算した後、(a)の方法を適用する。
- TOEICからの換算は、以下の式を使用してTOEFL (PBT)に換算した後、(a)の方法を適用する。
$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$
- 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとする。

・基礎部門

応用数学または小論文、あるいは両方の一部を複数設問中から選択解答する。

・専門部門

専門部門については、以下の「専門部門A」（土木工学系）、「専門部門B」（土木工学系以外）のいずれかを選択する。

専門部門A（土木工学系）

「構造・材料工学」、「地盤工学」、「水理・水工学」、「計画学」、「環境工学」の5つの系より、それぞれ4～6問出題し、これらの問題から5問を選択解答する。ただし、1つの系より選択可能な問題は3問までとする。

出題範囲については6ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門Aの項を参照のこと。

専門部門B（土木工学系以外）

本専攻では土木工学系以外の卒業生にも広く門戸を開き、専門部門Bの試験において社会基盤工学や環境管理に資する土木工学系以外の分野でのそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。

専門部門Bでは、(1)「社会基盤開発・環境管理」に関する問題（専門部門Bにおいて共通の問題）と、(2)社会基盤工学の中で入学後に希望する専攻分野から出題される問題の2つに対して解答する。(2)の出題にあたっては、受験者の出身分野に応じた問題が用意される。出題範囲については6ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門Bの項を参照のこと。本専攻での各分野に関する詳細は、7ページの表「指導教員および教育研究内容一覧表」および社会基盤工学専攻ホームページ（<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>）を参照のこと。

専門部門選択に関する注意

- i) 志願者の出身学科が土木工学系の場合は必ず「専門部門A」を選択する。
- ii) 志願者の出身学部、学科が土木工学系以外の場合は「専門部門A」、「専門部門B」のどちらを選択してもよい。
- iii) 「専門部門A」を選択した場合、志願者の出身学科に拘らず「専門部門A」で受験する。こちらから確認の通知はしない。
- iv) 「専門部門B」を選択した場合、志願者の出身学部、学科、専門分野について書類審査を行う。その参考とするので、出身学科のシラバス（授業要目）のコピーを1部提出すること。審査の結果、志願者が土木工学系であると判断された場合には、「専門部門A」で受験しなければならない。「専門部門B」での受験が許可されたか否かについては、7月22日（金）までに志願者に通知するので、自分の宛名を書いた返信用はがきを必ず同封すること。

専門部門選択調査用紙の提出

志願者は、別紙「社会基盤工学専攻（前期課程）入学試験専門部門選択調査用紙」に必要事項を記入して同封の「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係 宛」の封筒（切手は各自で貼付）に入れて返送すること（6月17日（金）までに必着）。なお、「専門部門B」を選択した場合は、出身学科のシラバス（授業要目）のコピー1部および自分の宛先を書いた返信用はがきを同封すること。

4. 募集人員

「平成18年度名古屋大学大学院工学研究科（前期課程）学生募集要項」に記載されているように、社会基盤工学専攻の博士課程前期課程の法定定員は36名である（参考のため、平成17年度の実績としては36名の法定定員に対し合格者が36名であった）。なお、外国人留学生は別枠定員により採用する。

5. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴムのみ使用してよい。電卓は大学側で準備するので持参しないこと。

6. 筆記試験時の遅刻者及び早退者の取り扱い

外国語の試験は、試験開始後20分以上の遅刻及び30分以内の早退は認められない。その他の試験は、試験開始後60分以上の遅刻及び60分以内の早退は認められない。

その他

この情報に変更、修正がある場合は次のホームページに掲載するので、随時確認のこと。
<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>（社会基盤工学専攻のホームページ）

追記

前年度実施の試験問題の入手方法については、直接、社会基盤工学教室事務室に来室して問い合わせるか、または、封筒の表に「大学院入試についての問い合わせ」と朱書きのうえ、その旨を記した書信と共に返信用封筒（A4サイズが入る角2封筒に自分の住所、氏名を書き、390円切手を貼る）を同封して下記へ送付のこと。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻事務室

◎博士課程(後期課程)

後期課程には、一般選抜と社会人特別選抜があり、以下のような第1次及び第2次選考により行う。

I. 第1次選考

1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・願書受付期間 平成17年7月11日(月) ～ 同年7月13日(水)
- ・第1次選考期日及び科目

月 日	時 間	科 目 名	試 験 場
8月23日(火)	10:00～12:00	1. 外国語(英語)	工学部7号館701講義室
	13:30～17:30	2. 基礎部門	
8月24日(水)	9:00～13:00	3. 専門部門	
	15:00～16:30	4. 口述試験	
8月25日(木)	筆記試験当日通知する。	5. 社会基盤工学専攻教員全 員による口頭試問	筆記試験当日通知する。 工学部9号館911講義室 (集合場所)

- ・第1次選考合格発表 平成17年9月15日(木) 正午

2. 筆記試験科目ならびに口述試験

・外国語

英語のみ。志願者全員必須とする。後期課程の試験ではTOEFLまたはTOEICのスコア換算は行わない。

・基礎部門・専門部門 (筆記試験)

専攻分野の基礎となる科目。あらかじめ希望指導教員とよく連絡をとり、相談の上、基礎部門・専門部門それぞれ2科目を設定する。この手続きに従って受験科目が設定されないと、受験に際し不利益を被る恐れがある。

・口述試験

筆記試験の内容およびそれに関わる学識について、出題委員による口述試験を行う。

なお、受験希望者は出願後、早急に名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻主任あるいは希望指導教員に連絡をとり、受験科目について指示を受けること。

3. 募集人員

「平成18年度名古屋大学大学院工学研究科(後期課程)学生募集要項」に記載されている通り、一般選抜の博士課程後期課程の定員は12名であるが、社会人特別選抜の募集定員はこれとは別に若干名を受け入れることができる。

4. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴムのみ使用してよい。試験に電卓が必要な場合は、大学側で準備するので持参しないこと。

5. 筆記試験時の遅刻者及び早退者の取り扱い

外国語の試験は、試験開始後20分以上の遅刻及び30分以内の早退は認められない。その他の試験は、試験開始後60分以上の遅刻及び60分以内の早退は認められない。

II. 第2次選考

第2次選考は、第1次選考合格者を対象として、修士論文の内容等に関する口頭試問を行う。なお、時期としては、平成18年2月上旬～3月上旬を予定している。

名古屋大学大学院工学研究科（社会基盤工学専攻）
平成18年度 博士課程（前期課程）入学試験学力検査出題範囲

科目名		主な出題範囲		時間・配点
外国語	英語	全員必須		120分 (200点)
基礎部門	小論文	応用数学3問と小論文3問の中から3問を選択解答する。	社会資本整備事業に関連する社会・経済的問題，地球および都市環境問題などに関する小論文で，主としてその論理性を問う。	180分 (1問100点， 合計300点)
	応用数学		微分・積分，ベクトル解析，行列と行列式，および確率・統計の基礎的事項ならびに工学への応用	
専門部門（A・Bのいずれか）	専門部門A	構造・材料工学	「構造・材料工学」，「地盤工学」，「水理・水工学」，「計画学」，「環境工学」	240分 (1問100点， 合計500点)
		地盤工学	の5つの系より，それぞれ4～6問を出題し，これらの問題から5問を選択解答する。	
		水理・水工学	ただし，1つの系より選択可能な問題は3問までとする。	
		計画学		
		環境工学		
	専門部門B	社会基盤開発・環境管理	国土・都市空間・社会基盤の開発・利用および環境管理などに関する基本的事項について問う。（2問）	
		専門分野	各受験者の出身学部・学科における専門のバックグラウンドを活かしつつ，社会基盤工学専攻各分野（7ページ「指導教員および教育研究内容一覧表」参照）での展開可能性について問う。（3問）	

なお，これ以外に社会基盤工学専攻全教員による口頭試問がある。

指導教員および教育研究内容一覧表

専門分野	指導教員	教育・研究内容
構造工学 ・ 材料工学 ・ 情報工学	宇佐美 勉 教授	鋼構造物の耐震・免震・制震設計, 座屈・耐荷力, 耐震解析, ハイブリッド地震応答実験
	伊藤 義人 教授	構造物のライフサイクルアナリシス, 環境システムなどの情報処理, 地震力及び衝撃を受ける構造物の挙動とその設計法
	舘石 和雄 教授*	鋼構造物の維持管理工学, 鋼構造部材の延命化技術, 鋼構造物の点検技術, 鋼・コンクリートの合成構造物の力学的挙動
	中村 光 教授	コンクリート構造学, RC構造物の非線形数値解析, RC構造物の耐震性能評価, コンクリート中の物質移動と耐久性解析
	葛 漢彬 助教授	鋼構造物の弾塑性挙動解析, 構造物の耐震設計法および耐震性の評価
	北川 徹哉 助教授*	構造動力学, 風工学, 数値流体力学, 構造・環境関連問題
	国枝 稔 助教授	土木材料学, 補修工学, 維持管理工学, コンクリートの破壊の力学
	葛西 昭 講師	鋼構造物の耐震設計法, 構造物-地盤連成系の耐震解析, 鋼構造物の耐震・免震・制震
地盤工学	浅岡 顕 教授	土の弾塑性力学, 水～土骨格連成の地盤の変形解析・支持力解析, 「構造」や「異方性」を有する自然堆積粘土の力学挙動のモデル化と実験
	澤田 義博 教授	地震の発生メカニズム, 地盤構造調査・解析, 地盤の地震増幅特性, 地盤振動, 振動制御, 地盤・構造物連成系の解析
	中野 正樹 助教授	自然堆積粘土の時間依存的挙動, 第三紀泥岩のスレーキングのメカニズム, 超過圧密粘土・飽和砂の進行性破壊, 地盤材料学
	野田 利弘 助教授	飽和土の動/静的水～土連成有限変形解析, 地盤改良・補強工等の工法原理の解明・開発, 自然堆積地盤の生成過程の再現
河川工学 ・ 海岸工学 ・ 水環境学	辻本 哲郎 教授	移動床流れの水理, 河川の生態環境水理, 河相の変遷, 河川災害
	片山 新太 教授*	土壌・地下水汚染の微生物浄化, 土壌・地下水汚染の浄化シミュレーションと評価, 化学物質の土壌生態系への影響評価, 有機質廃棄物処理技術
	水谷 法美 教授	海岸構造物の耐波安定性, 海岸・海洋構造物による波変形と作用波力, 海浜変形と海岸侵食, 波による埋立土砂の吸い出し機構, 構造物に作用する津波力
	鷺見 哲也 講師	治水システムの解析, 河道内物理環境とその挙動解析, 不飽和土壌水理と物質輸送, 山地水文過程
	戸田 祐嗣 講師	河川環境水理, 生物一次生産と栄養塩輸送, 河川地形と生物の相互作用
	川崎 浩司 助教授	固気液多相乱流数値モデルの開発, 可動式防潮堤による越波と作用波力, 閉鎖性水域の流動・密度構造, 伊勢湾の風波と風成流
都市計画 ・ 交通工学 ・ 空間設計学	中村 英樹 助教授	交通工学, 交通計画, 交通管理, 高度道路交通システム(ITS), 車両挙動・交通現象のモデル化, 交通流シミュレーション, 道路幾何構造
	山本 俊行 助教授	自動車保有・利用分析, 交通行動分析, アクティビティ分析, 交通需要予測, 交通安全・事故分析

(*)エコトピア科学研究所

(別紙)

社会基盤工学専攻（前期課程）入学試験

専門部門選択調査用紙<必ず提出すること>

○受験番号 _____ (記入不要)

○出身大学・学部・学科名： _____ 大学 _____ 学部
_____ 学科

○氏名： _____

○現在の指導教員名： _____ (連絡先 TEL： _____)

○卒業研究のテーマ： _____

◎専門部門において、以下のいずれの問題で受験するか（全員、必ずご記入下さい）。

・ 専門部門 A ・ 専門部門 B

(いずれかを○で囲む)

専門部門Bを選択された方のみお答えください。

○希望する専門分野（専攻入試案内7ページ表参照）： _____

希望する指導教員： _____

○連絡先住所：〒 _____

○電話番号： _____

○ファクシミリ番号（もしあれば）： _____

○E-mail アドレス（もしあれば）： _____

(注意)

- 1) 同封の「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係宛」の封筒にて、6月17日（金）（必着）までに送付すること。
- 2) 専門部門 B 選択者は、出身学科のシラバス（授業要目）のコピー および 返信用のはがきも同封すること。
- 3) 連絡先住所、電話番号、ファクシミリ番号等の記入の際には、夏期休暇中でも確実にこちらからの通知等が受け取れる様に配慮すること。